

新興市場銘柄

1. 評価対象企業（28 社）

出前館、セリア、ティーケーピー（再評価）、ユーザベース、UUUM、PKSHA Technology、セプテーニ・ホールディングス、メルカリ、チームスピリット、スマレジ（新規）、カオナビ、Chatwork（新規）、HENNGE（新規）、BASE（新規）、フリー（新規）、マクアケ（新規）、メドレー（新規）、JMDC（新規）、JTOWER（新規）、サンバイオ、ヘリオス（新規）、弁護士ドットコム、イトクロ、NITTOKU、ハーモニック・ドライブ・システムズ、ワークマン、ブシロード（新規）、バリュエンスホールディングス

（証券コード協議会銘柄コード順）

2. 対象企業の選定方法および評価方法

（1）対象企業の選定方法

本年度における新興市場銘柄の評価対象企業は、ジャスダック、マザーズ、セントレックス、Q-Board およびアンビシャスの 5 つの市場に上場している企業（注 1）の中で、時価総額が上位（注 2）であって、かつ、その企業を調査対象としているアナリストの数（注 3）が一定数以上の 28 社（昨年度 29 社）とした。なお、28 社のうち、継続評価企業が 16 社、新規評価企業が 11 社、再評価企業（2 年以上前に評価対象としたことがある企業）が 1 社となっている。

（注 1） アナリストへのスコアシート発送時（本年 5 月下旬）に、上場後 1 年未満の企業は対象から除外した。

（注 2） 昨年 11 月末時点の時価総額を基準とした。

（注 3） 本年 1 月に当協会が証券会社等へ新興市場銘柄をカバーするアナリスト数を照会して得られた数。

（2） 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目(注)数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	4	35
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	3	25
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	2	15
④コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	コーポレート・ガバナンス関連	2	17
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	2	8
計		13	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

（3） 評価実施アナリストは 86 名〔昨年度 73 名〕（所属先 31 社〔昨年度 32 社〕）である。（氏名等は後掲）

3. 評価結果

（1） 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

- ① 本年度は、経営陣の IR 姿勢等および説明会等を除く 3 分野において内容・配点変更を行い、評価を実施した。また、新規評価（11 社）および再評価（1 社）の企業もある。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 67.0 点（昨年度 67.2 点）、総合評価点の標準偏差は 6.7 点（昨年度 9.5 点）で

あった。

- ② 総合評価点については、80 点台がなく（昨年度 2 社）、70 点台が 10 社（昨年度 11 社）、60 点台が 14 社（昨年度 9 社）、50 点台が 3 社（昨年度 5 社）、40 点台が 1 社（昨年度 2 社）となった。
- ③ 5 つの評価分野の平均得点率（評価対象企業の平均点／配点（以下省略））を見ると、**経営陣の IR 姿勢等**が 71%（昨年度 70%）、**説明会等**が 65%（昨年度 66%）、**フェア・ディスクロージャー**が 74%（昨年度 71%）、**コーポレート・ガバナンス関連**が 62%（昨年度 60%）、**自主的情報開示**が 54%（昨年度 65%）となり、**自主的情報開示**が、昨年度に比べて大きく下がった。
- ④ 一方、全 13 項目の平均得点率を見ると、最高で 75%（2 項目）、最低で 52%となった。次の 3 項目（**コーポレート・ガバナンス関連**の 1 項目(c)、**自主的情報開示**の 2 項目（(a) (b)）は、50%台と低水準となった。

(a) 「(工場・施設見学会の実施、主要事業に関する説明会の開催およびアニュアルレポートの作成) 以外の非財務情報の開示に取り組んでいますか」(平均得点率 52% [昨年度 68%]) (得点率(評価点/配点(以下省略)): 30%台 1 社・40%台 8 社・50%台 13 社・60%台 6 社)

(b) 「ウェブサイトでの開示や決算説明会以外での開示(工場・施設見学会の実施、主要事業に関する説明会の開催およびアニュアルレポートの作成など)に取り組んでいますか」(平均得点率 57% [昨年度 62%]) (得点率: 40%台 4 社・50%台 14 社・60%台 6 社・70%台 4 社)

(c) 「資本政策、株主還元策、キャッシュの使途、財務バランス、資金調達および目標とする経営指標等について十分に説明されていますか」(平均得点率 59% [昨年度 59%]) (得点率: 40%台 4 社・50%台 9 社・60%台 13 社・70%台 2 社)

- ⑤ 非財務情報関連の項目(上記④(a))は、昨年度に比べ大きく下がり、全 13 項目で最も低い水準となった。

(2) 優良企業(上位 3 企業)の評価概要

第 1 位 HENNGE (ディスクロージャー優良企業〔初受賞〕、総合評価点 77.9 点)

- ① 同社(事業内容:企業向けクラウドサービス「HENNGE One」等の提供。市場:マザーズ(2019 年 10 月上場)、新興市場銘柄としての評価対象:初回)は、**経営陣の IR 姿勢等**(得点率(以下省略)84%)、**説明会等**(77%)が第 1 位、**フェア・ディスクロージャー**が同得点第 1 位(84%)、**コーポレート・ガバナンス関連**が第 2 位(73%)、**自主的情報開示**が同得点第 12 位(55%)となった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣が、IR 活動の重要性を認識し、ミーティング等を通じて自ら経営戦略を十分に説明していること」が最も高い評価となった。これに関連して、経営トップが投資家との対話に意欲的であることや、自らの言葉で語る姿勢を評価する声が寄せられた。また、「IR 部門が、経営陣と情報を共有することにより、経営陣の代弁者として十分に機能していること」および「会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的に開示を行っていること」も評価された。これらの結果、この分野において第 1 位となった。
- ③ **説明会等**においては、「今期業績計画について、根拠を示し整合性のある説明をしていること、また、四半期の情報開示が経営実態に即して十分に行われていること」が最も高い評価となった。また、「収益および財務分析に必要なデータが十分に記載されていること」も高く評価され、第 1 位と僅差の第 2 位となった。これに関連して、説明会資料等における各種 KPI の開示が充実していると評価する声が寄せられた。なお、「中・長期の成長見通しについて、具体的に根拠を示し整合性のある説明をしていること」は同得点第 9 位となった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「投資家にとって重要と判断される事項(業績変動、合併・提携・事業買収、増資、事故・災害、リスク情報等)の開示が迅速に行われ、かつ不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていること」が同得点第 1 位となった。また、「ウェブサイトを利用して有用な情報提供(決算説明会の資料・質疑応答・動画配信、過去の長期財務データ)を行っていること。また、英文による情報提供を行っていること」も高く評価された。なお、英語による決算説明動画を掲載していることを評価する声があった。これらの結果、この分野において同得点第 1 位となった。
- ⑤ **コーポレート・ガバナンス関連**においては、「資本政策、株主還元策、キャッシュの使途、財務バランス、資金調達および目標とする経営指標等について十分に説明されていること」が最も高く評価された。「経営機構(社外取締役の独立性等)、経営資源および内部統制について十分に説明されていること」は同得点第 4 位となっ

た。なお、社外取締役が1名であることにし説明を求める声があった。

- ⑥ **自主的情報開示**においては、「ウェブサイトでの開示や決算説明会以外の開示（施設見学会の実施、主要事業に関する説明会の開催およびアニュアルレポートの作成など）に取り組んでいること」および「非財務情報の開示に取り組んでいること」が共に同得点第11位となった。

第2位 ユーザベース（ディスクロージャー優良企業〔3回連続3回目〕、総合評価点 74.7点〔昨年度比－6.9点〕、昨年度第1位）

- ① 同社（事業内容：情報インフラの提供。市場：マザーズ（2016年10月上場）、新興市場銘柄としての評価対象：4回目）は、**コーポレート・ガバナンス関連**が第1位（75%）、**フェア・ディスクロージャー**が同得点第1位（84%）、**経営陣のIR姿勢等**が第2位（82%）、**説明会等**が同得点第11位（69%）、**自主的情報開示**が第27位（41%）となった。昨年度に比べ、**説明会等**および**自主的情報開示**の得点率が大きく下がった。
- ② **経営陣のIR姿勢等**においては、「会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的に開示を行っていること」が最も高い評価となった。また、「経営陣が、IR活動の重要性を認識し、ミーティング等を通じて自ら経営戦略を十分に説明していること」および「IR部門が、経営陣と情報を共有することにより、経営陣の代弁者として十分に機能していること」も評価された。これらに関連して、経営陣がプレゼンターとして決算説明会を実施していること、四半期説明会でも経営陣が経営戦略の説明や質疑応答に積極的に対応していることを評価する声が寄せられた。これらの結果、この分野において第1位と僅差の第2位となった。
- ③ **説明会等**においては、「中・長期の成長見通しについて、具体的に根拠を示し整合性のある説明をしていること」が平均得点率にとどまり、第17位となった。これに関連して、中期の成長計画において具体的な戦略が十分に説明されていないとの声があった。「収益および財務分析に必要なデータが十分に記載されていること」は同得点第11位となり、第1位と20ポイント差がついた。なお、業務が多様化してきているため、それに応じた開示内容にしていく必要があるとの声があった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「ウェブサイトを利用して有用な情報提供（決算説明会の資料・質疑応答・動画配信、過去の長期財務データ）を行っていること。また、英文による情報提供を行っていること」が最も高い評価となった。これに関連して、説明会の質疑応答に工夫が見られ、コミュニケーションがとりやすいとの声が寄せられた。また、「投資家にとって重要と判断される事項（業績変動、合併・提携・事業買収、増資、事故・災害、リスク情報等）の開示が迅速に行われ、かつ不公平や混乱が生じないように十分な注意を払っていること」（第4位）も、80%以上の得点率となった。これらの結果、この分野において同得点第1位となった。
- ⑤ **コーポレート・ガバナンス関連**においては、「経営機構（社外取締役の独立性等）、経営資源および内部統制について十分に説明されていること」が最も高く評価された。これに関連して、ガバナンス向上の取組みに関する説明を評価する声があった。「資本政策、株主還元策、キャッシュの使途、財務バランス、資金調達および目標とする経営指標等について十分に説明されていること」も第2位となった。これらの結果、この分野において第1位となった。なお、株主還元およびM&Aの方針の説明を望む声があった。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、「ウェブサイトでの開示や決算説明会以外の開示（施設見学会の実施、主要事業に関する説明会の開催およびアニュアルレポートの作成など）に取り組んでいること」（同得点第27位）および「非財務情報の開示に取り組んでいること」（第27位）については共に平均得点率を大きく下回り、第1位とはいずれも25ポイント以上差がついた。なお、説明会資料において非財務情報の記載の充実を望む声があった。

第3位 メドレー（ディスクロージャー優良企業〔初受賞〕、総合評価点 74.0点）

- ① 同社（事業内容：医療ヘルスケア関連のインターネットサービスの提供。市場：マザーズ（2019年12月上場）、新興市場銘柄としての評価対象：初回）は、**説明会等**が同得点第2位（75%）、**経営陣のIR姿勢等**が第3位（79%）、**フェア・ディスクロージャー**が第4位（82%）、**コーポレート・ガバナンス関連**が同得点第7位（66%）、**自主的情報開示**が同得点第21位（49%）となった。
- ② **経営陣のIR姿勢等**においては、「IR部門の機能」および「フェア・ディスクロージャー・ルールの趣旨を十分に理解し、情報開示を後退させることなく、より積極的に情報開示を行っていること」が最も高い評価とな

った。これらに関連して、IR 部門を取締役が担当するなど十分に機能させている、また、IR 部門が経営陣とのつなぎ役として役割を果たしているとの声が寄せられた。「会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的に開示を行っていること」については同得点第 9 位となった。なお、医療プラットフォーム事業に関連した情報の充実を望む声があった。

- ③ **説明会等**においては、「中・長期の成長見通しについて、具体的に根拠を示し整合性のある説明をしていること」が同得点第 1 位となり、また、「今期業績計画について、根拠を示し整合性のある説明をしていること、また、四半期の情報開示が経営実態に即して十分に行われていること」も同得点第 2 位となった。これらに関連して、KPI の設定とその達成に向けた戦略が明確に示されているとの声が寄せられた。これらの結果、この分野において第 1 位と僅差の第 2 位となった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「投資家にとって重要と判断される事項（業績変動、合併・提携・事業買収、増資、事故・災害、リスク情報等）の開示が迅速に行われ、かつ不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていること」が評価された。これに関連して、M&A や提携等の情報について、迅速に詳細な説明がされる点を評価する声があった。「ウェブサイトを利用して有用な情報提供（決算説明会の資料・質疑応答・動画配信、過去の長期財務データ）を行っていること。また、英文による情報提供を行っていること」（第 4 位）についても、80%以上の得点率となった。
- ⑤ **コーポレート・ガバナンス関連**においては、「資本政策、株主還元策、キャッシュの使途、財務バランス、資金調達および目標とする経営指標等について十分に説明されていること」が同得点第 5 位となった。これに関連して、資本政策に関する開示が充実しているとの声や、資金調達の方針が明確との声があった。なお、「経営機構（社外取締役の独立性等）、経営資源および内部統制について十分に説明されていること」については、同得点第 10 位にとどまった。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、「ウェブサイトでの開示や決算説明会以外の開示（施設見学会の実施、主要事業に関する説明会の開催およびアニュアルレポートの作成など）に取り組んでいること」および「非財務情報の開示に取り組んでいること」については共に平均得点率を下回り、第 1 位とはいずれも 20 ポイント差がついた。

上記の **HENNGE**、**ユーザベース**、**メドレー**の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、これら 3 社を本年度の新興市場銘柄における優良企業として選定した。

以 上

2021年度 ディスクロージャー評価比較総括表（新興市場銘柄）

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示		3. フェア・ディスクロージャー		4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示		5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示		前回順位
			評価点	順位 評価項目4 (配点 35点)	評価点	順位 評価項目3 (配点 25点)	評価点	順位 評価項目2 (配点 15点)	評価点	順位 評価項目2 (配点 17点)	評価点	順位 評価項目2 (配点 8点)	
1	4475 HENNGE	77.9	29.3	1	19.2	1	12.6	1	12.4	2	4.4	12	
2	3966 ユーザベース	74.7	28.8	2	17.3	11	12.6	1	12.7	1	3.3	27	1
3	4480 メドレー	74.0	27.8	3	18.7	2	12.3	4	11.3	7	3.9	21	
4	4293 セブテニー・ホールディングス	73.7	26.4	7	18.1	6	11.5	10	12.2	3	5.5	1	15
5	7564 ワークマン	73.4	26.2	8	18.7	2	12.6	1	10.8	13	5.1	2	12
6	4483 JMDC	71.6	27.5	4	18.7	2	11.9	5	9.5	22	4.0	19	
7	6027 弁護士ドットコム	70.9	26.2	8	17.3	11	11.2	15	11.3	7	4.9	4	2
8	4431 スマレジ	70.8	26.5	6	18.2	5	11.5	10	10.1	19	4.5	9	
9	3479 ティーケーピー	70.7	26.0	10	17.3	11	11.9	5	10.4	16	5.1	2	
10	4478 フリー	70.1	25.9	12	16.0	19	11.9	5	12.1	4	4.2	16	
11	4448 Chatwork	69.8	24.9	17	17.5	8	11.4	12	11.9	5	4.1	17	
11	6324 ハーモニック・ドライブ・システムズ	69.8	25.2	16	17.4	9	11.9	5	10.8	13	4.5	9	11
13	4477 BASE	69.3	26.0	10	16.7	15	11.7	9	10.5	15	4.4	12	
14	4485 JTOWER	69.0	25.4	14	16.0	19	11.4	12	11.3	7	4.9	4	
15	2782 セリア	68.8	27.5	4	16.8	14	11.0	16	9.8	20	3.7	24	10
16	4435 カオナビ	68.0	24.4	19	18.0	7	10.8	19	11.0	11	3.8	23	8
17	4397 チームスピリット	67.6	24.2	21	16.2	17	11.0	16	11.5	6	4.7	8	4
18	9270 バリエンスホールディングス	67.3	24.8	18	17.4	9	11.4	12	9.8	20	3.9	21	19
19	4479 マクアケ	67.1	25.6	13	16.1	18	10.7	21	10.3	18	4.4	12	
20	6049 イトロ	65.4	25.4	14	16.4	16	9.6	25	9.5	22	4.5	9	17
21	3990 UUUM	61.6	21.9	24	14.7	22	10.5	23	10.4	16	4.1	17	18
22	6145 NITTOKU	61.2	22.2	22	14.7	22	11.0	16	9.0	26	4.3	15	13
23	4385 メルカリ	60.5	21.8	25	12.0	26	10.6	22	11.3	7	4.8	6	26
24	3993 PKSHA Technology	60.2	20.8	26	14.8	21	9.6	25	11.0	11	4.0	19	24
25	7803 プシロード	59.8	22.2	22	14.2	24	9.4	27	9.2	24	4.8	6	
26	4593 ヘリオス	59.7	24.4	19	12.4	25	10.0	24	9.2	24	3.7	24	
27	2484 出前館	53.8	19.2	27	11.8	27	10.8	19	8.4	27	3.6	26	21
28	4592 サンバイオ	47.8	18.9	28	10.0	28	8.5	28	7.3	28	3.1	28	28
	評価対象企業評価平均点	66.96	24.84		16.16		11.12		10.54		4.30		

2021年度評価項目および配点(新興市場銘柄)

【評価期間：2020年7月～2021年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス (35点)	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
・経営陣が、IR活動の重要性を認識し、ミーティング等を通じて自ら経営戦略を十分に説明していますか。 [1点～15点の整数で評価]【評価企業の優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	15
(2)IR部門の機能	
・IR部門が、経営陣と情報を共有することにより、経営陣の代弁者として十分に機能していますか。 [1点～10点の整数で評価]【評価企業の優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10
(3)IRの基本スタンス	
①フェア・ディスクロージャー・ルールの趣旨を十分に理解し、情報開示を後退させることなく、より積極的に情報開示を行っていますか。 [1点～5点の整数で評価]【評価企業の優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	5
②会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的に開示を行っていますか。 [1点～5点の整数で評価]【評価企業の優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	5
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示 (25点)	配点
(1)決算説明会、インタビューにおける開示	
①今期業績計画について、根拠を示し整合性のある説明をしていますか。また、四半期の情報開示は経営実態に即して十分に行われていますか。 [1点～10点の整数で評価]【評価企業の優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10
②中・長期の成長見通しについて、具体的に根拠を示し整合性のある説明をしていますか。 [1点～10点の整数で評価]【評価企業の優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10
(2)説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示	
・収益および財務分析に必要なデータは十分に記載されていますか。 [1点～5点の整数で評価]【評価企業の優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	5
3. フェア・ディスクロージャー (15点)	配点
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
・投資家にとって重要と判断される事項（業績変動、合併・提携・事業買収、増資、事故・災害、リスク情報等）の開示は迅速に行われ、かつ不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。 [1点～10点の整数で評価] 【評価企業の優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10
(2)ウェブサイトにおける情報提供	
・ウェブサイトを利用して有用な情報提供（決算説明会の資料・質疑応答・動画配信、過去の長期財務データ）を行っていますか。また、英文による情報提供を行っていますか。 [1点～5点の整数で評価] 【評価企業の優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	5
4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示 (17点)	配点
(1)資本政策、株主還元策等の開示	
・資本政策、株主還元策、キャッシュの使途、財務バランス、資金調達および目標とする経営指標等について十分に説明されていますか。 [1点～10点の整数で評価]【評価企業の優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10
(2)経営機構、経営資源および内部統制について	
・経営機構（社外取締役の独立性等）、経営資源および内部統制について十分に説明されていますか。 [1点～7点の整数で評価] 【評価企業の優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	7
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示 (8点)	配点
①ウェブサイトでの開示や決算説明会以外での開示（工場・施設見学会の実施、主要事業に関する説明会の開催およびアニュアルレポートの作成など）に取り組んでいますか。（前年7月から本年6月までの間） [1点～3点の整数で評価] 【評価企業の優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	3
②上記以外の非財務情報の開示に取り組んでいますか。 【評価企業の優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	5

新興市場銘柄専門部会委員

部 会 長	古島 次郎	大和証券
部会長代理	渡辺 真理子	UBS 証券
	新谷 嘉史	三井住友トラスト・アセットマネジメント
	岩本 誠一郎	アセットマネジメント One
	大寺 貴仁	野村証券
	中川 雅嗣	三菱 UFJ 国際投信
	納 博司	いちよし経済研究所
	東田 暁	野村アセットマネジメント

評価実施アナリスト（86名）

饗場 大介	岩井コスモ証券	都築 伸弥	みずほ証券
相原 佳奈子	三菱 UFJ 信託銀行	鶴尾 充伸	シティグループ証券
浅川 直騎	朝日ライフ アセットマネジメント	勅使河原 充	朝日ライフ アセットマネジメント
新谷 嘉史	三井住友トラスト・アセットマネジメント	寺島 正	大和アセットマネジメント
姉川 俊幸	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券	得永 一樹	大和証券
新井 勝己	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券	富田 展昭	極東証券経済研究所
有沢 正一	岩井コスモ証券	中尾 謙介	三井住友トラスト・アセットマネジメント
石田 重和	丸三証券	中川 雅嗣	三菱 UFJ 国際投信
石井 孝一郎	三菱 UFJ 信託銀行	中島 智也	丸三証券
伊藤 彰洋	三井住友 DS アセットマネジメント	永田 和子	QUICK
今井 恵介	第一生命保険	仲西 恭子	アセットマネジメント One
入沢 健	立花証券	中山 陽子	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
岩本 誠一郎	アセットマネジメント One	納 博司	いちよし経済研究所
江上 誠	三井住友トラスト・アセットマネジメント	成清 康介	野村証券
大浦 裕太	第一生命保険	西原 里江	JP モルガン証券
大野 剛	丸三証券	長谷川 義人	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
大場 剛平	野村アセットマネジメント	畑田 真	SBI 証券
大平 光行	東海東京調査センター	原田 大輔	QUICK
岡田 真一	三菱 UFJ 信託銀行	東田 暁	野村アセットマネジメント
小野 友嗣	野村アセットマネジメント	藤根 靖晃	ディー・アイ・エス・リユ
鎌田 聡	大和アセットマネジメント	藤原 重良	SOMPO アセットマネジメント
川島 隆治	大和アセットマネジメント	古山 和希	みずほ証券
絹川 友彦	野村アセットマネジメント	宝水 裕圭里	東海東京調査センター
清田 涼輔	東海東京調査センター	グレアム マクトナルド	シティグループ証券
古島 次郎	大和証券	町田 了	第一生命保険
坂野 剛史	第一生命保険	松原 弘幸	野村証券
佐藤 耕喜	みずほ証券	三浦 勇介	大和証券
佐藤 啓吾	ニッセイ アセット マネジメント	水野 晃	UBS 証券
佐野 友彦	JP モルガン証券	皆川 良造	SMBC 日興証券
佐野 滉介	第一生命保険	峯嶋 利隆	ニッセイ アセット マネジメント
澤田 遼太郎	エス経済研究所	宮崎 孝志	三井住友トラスト・アセットマネジメント
清水 康之	QUICK	宮原 直也	第一生命保険
須々木 亮祐	大和アセットマネジメント	牟田 知倫	SOMPO アセットマネジメント
鈴木 崇生	大和証券	村岡 真一郎	モルガン・スタンレー MUFG 証券
鈴木 茂樹	大和アセットマネジメント	村上 宏俊	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
関根 哲	大和証券	山口 啓朗	大和アセットマネジメント
高橋 豊	極東証券経済研究所	山本 真以人	ニッセイ アセット マネジメント
めぐみ	東洋証券	吉田 純平	野村証券
宝田 晋介	ニッセイ アセット マネジメント	吉林 拓馬	東海東京調査センター
武井 智史	三井住友トラスト・アセットマネジメント	葭原 友子	大和証券
谷林 正行	QUICK	若尾 正示	JP モルガン証券
田村 真一	極東証券経済研究所	渡辺 真理子	UBS 証券
千葉 馨	JP モルガン証券	渡辺 洋之	三井住友 DS アセットマネジメント

（注） 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。